

# コロナ禍の図画工作科における ICT を活用した「対話的な学び」に関する一考察

八嶋 孝幸

A Study of “Interactive Learning” Using ICT in the Department of Arts and Crafts in Corona Disaster.

Takayuki YASHIMA

本研究は、コロナ感染防止も意図した ICT を活用した「対話的な学び」の充実をさせることが、図画工作科で目指す資質・能力を向上させることに有用であるかについて検証することを目的とする。

ICT を活用して、対話をしながら様々な発想や構想、アイデア、表し方があることに気付き、互いの表現や鑑賞を高め合う場の設定などを意図した授業デザインをすることで、「対話的な学び」で育てることをねらう資質・能力が向上したか、また、「対話的な学び」が実現したことを自覚できたかを検証するため、授業において課題を発見する活動、知識や技能を用いて課題を解決する活動などのパフォーマンスの様子やアンケートの記述を基に分析し、成果を考察した。

本研究における授業実践は、

主に表現に関する「対話的な学び」について 1 題材。(クラウドに保存した作品を通じた交流)

主に鑑賞に関する「対話的な学び」について 1 題材。(Teams を使用した交流)

計 2 題材を実施した。

授業後に考察した結果、ICT を活用して「対話的な学び」の実現を意図した授業デザインをしたことで、思いを広げて表現する際の感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付く力や自分たちの作品の造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる力などの「対話的な学び」で育てることをねらう資質・能力の向上が見られた。

また、「対話的な学び」が実現したことを自覚できたという様子が多く見られた。これまでの対面学習の交流の仕方とは違いがあるが、意図的な ICT の活用がお互いの活動を見合いながら考えたことを伝え合ったり感じたことや思ったことを話したりする活動の充実につながったのであろう。

これらのことから、ICT を活用した「対話的な学び」の充実が、図画工作科で目指す資質・能力を向上させることに有用であることが確認できた。

ただし、図画工作科で ICT の活用をする際には、手や体全体の感覚を働かせて様々な対象や事象を心に感じ取るなど、感性や想像力を働かせる場面を大切にすることや、発達の段階に応じて適切に活用することを留意すべきである。どの場面で取り入れるかを吟味して、カリキュラムを改善していくことが、今後の課題である。カリキュラム全体を見通し、よりよく資質・能力を培うためにどのように ICT を活用していくかを意図したカリキュラムデザインについて、今後も検討していきたい。